

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	JICA の国際協力に関する業務について
報告者	国際経営学部国際経営学科 1 年 宮里蒼大
調査日	2023 年 12 月 13 日(水)14:30~18:30
調査先	JICA
担当教員身分・氏名	教授・山田恭稔
CVS 担当	高橋夢有人、稲木陵介、蔣思音
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1 年生 10 人、2 年生 3 人
調査趣旨・目的	国際協力に関する業務について学び、JICA の職員の体験談の聴講・質疑応答を通じて、キャリア・パスを構築するための意識や可能性を考える。
調査結果	<p>今回の訪問では、「国際協力」とは何か、国際協力に関わる機関や企業のとのかかわりを学び、各自が興味をもった JICA の活動について調査・グループワークで共有・発表する事前学習を行った上で JICA 東京に訪問を行った。</p> <p>訪問当日は市民参加協力第二課課長の加瀬晴子様より、大きく 3 点に分けてプレゼンテーションをしていただいた。初めに 1 点目は「途上国とのかかわり」について話を伺った。学生が今まで持っていた「途上国」に対するイメージや意識について問題提起した後、実際の「途上国」の種類や直面している課題について示して頂いた。そして、日本との対比を交えながら詳しい話をお伺いした。次に 2 点目として「JICA の取り組み」についての話を伺った。ここでは「信頼で世界をつなぐ」という理念に基づき、時に NGO や民間企業と連携しながら発展途上国をはじめとした国々に支援・信頼関係を重視した日本独自の支援をこれまで実際に行った国際協力アプローチの事例とともに教えていただいた。最後として 3 点目に「自身にとっての JICA の活動」についての話を伺った。ここでは、加瀬様が JICA に入構したきっかけや経験したこれまでの支援活動、主にフィリピンでの和平交渉に携わったという実体験をもとに得た学びや当時の心境を伝えて頂いた。これまで国際協力や JICA が行う支援活動の実態を掴み切れずにいた学生たちにとって、加瀬様の肌で感じた体験談はとても現実味があり、JICA の業務内容をより深く理解することにつながった。さらにプレゼンテーション後の質疑応答で、働くことの意味について、子育てをしながら働くことなどの女性職員のキャリア・パスについて、幸せの概念についてといった幅広いジャンルの質問に対しての回答を頂いた。</p> <p>本訪問で JICA 職員の仕事に対する情熱の強さを実感することが出来た。フィリピンの和平交渉においても他の国が支援を打ち切る中で見せた JICA の強い意志と、現地での支援を続ける職員の熱く懸命な活動によって、フィリピンとより強固な信頼関係を築き上げることに成功した。情勢が刻々と変わる中で柔軟に対応しつつ、一貫して支援し続けたことから、固定観念にとらわれず、状況に応じて戦略を変更し、迅速に対応する柔軟性の大切さや時に辛抱強く継続し仕事に真摯に向き合い、失敗してもそこから何を学べるかを考えることが重要であると改めて考える貴重な機会になった。本訪問では私たち学生にとって、今回は仕事内容についてのみならず自分のキャリアに対する</p>

考え方、実際社会に出て必要な考え方を学ぶきっかけになった。

お話を下さっている加瀬様



加瀬様のお話を聞く学生



お礼のお土産を渡す学生と加瀬様



最後に JICA の看板の前で集合写真を撮りました！

